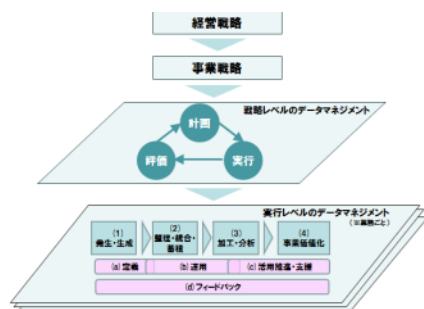


2014年度JUAS研究活動成果報告会 ー データマネジメント研究会 ー

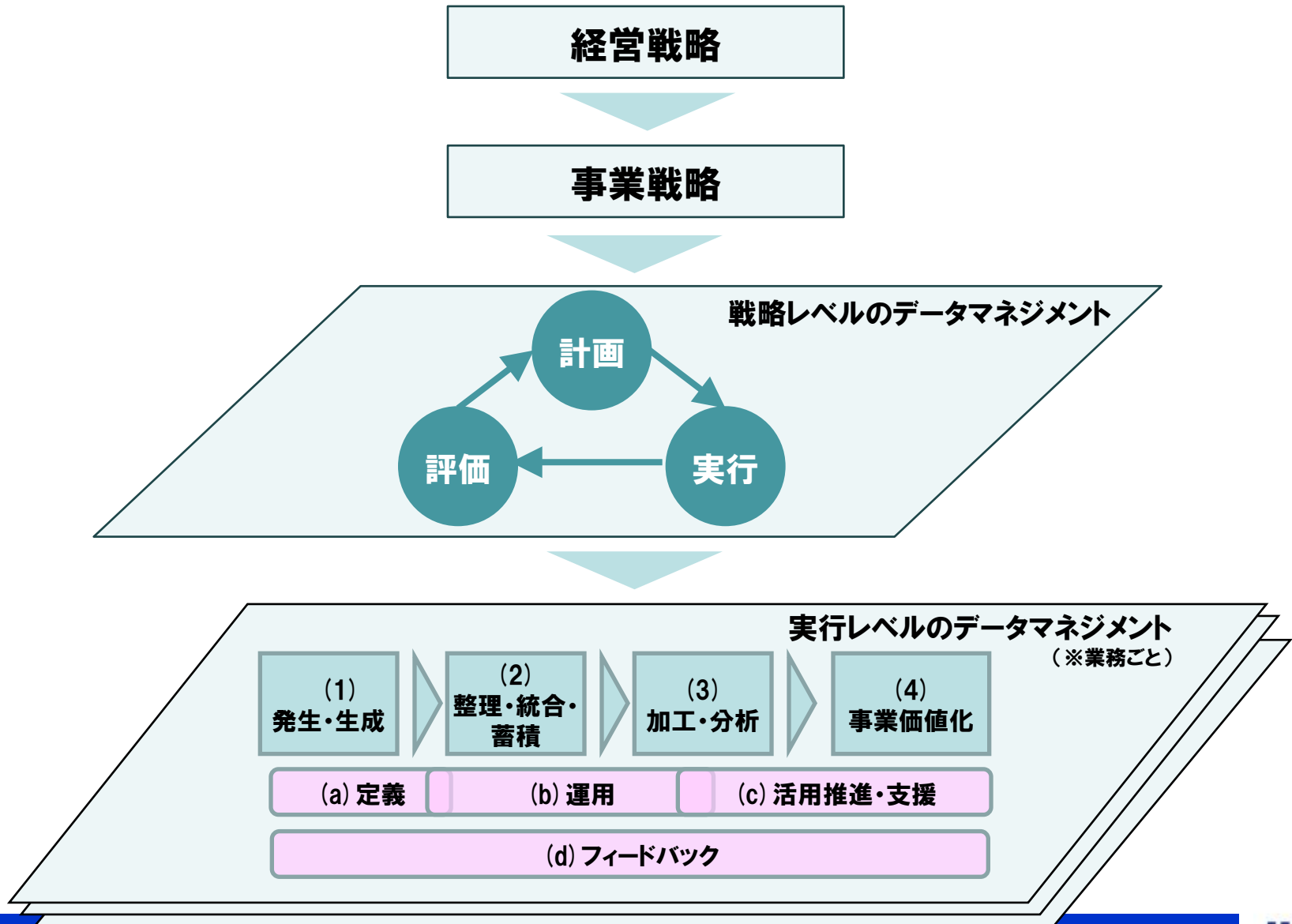


2015年4月23日

データマネジメント研究会

はじめに

－研究会が考えるデータマネジメントの全体像－



2014年度 データマネジメント研究会の活動概要

《実施期間》

2014年5月22日 ～ 2015年3月14日

《研究テーマ》

- (1) データマネジメントのフレームワークと組織
- (2) データ利活用のための技術と方法論
- (3) データ利活用の事業価値

《主な活動実績》

- ・定例研究会 : 8回
- ・事例発表 : 4社
- ・合宿 : 2回 (つくば合宿＋JUAS日帰り合宿)
- (・監事会 : 11回)
- * その他 分科会多数

研究会のスタート地点 —参加各社の課題認識—

研究会メンバーへの事前アンケートや
全員によるブレストの結果をテキストマイニング
し、課題認識の所在を分析した。

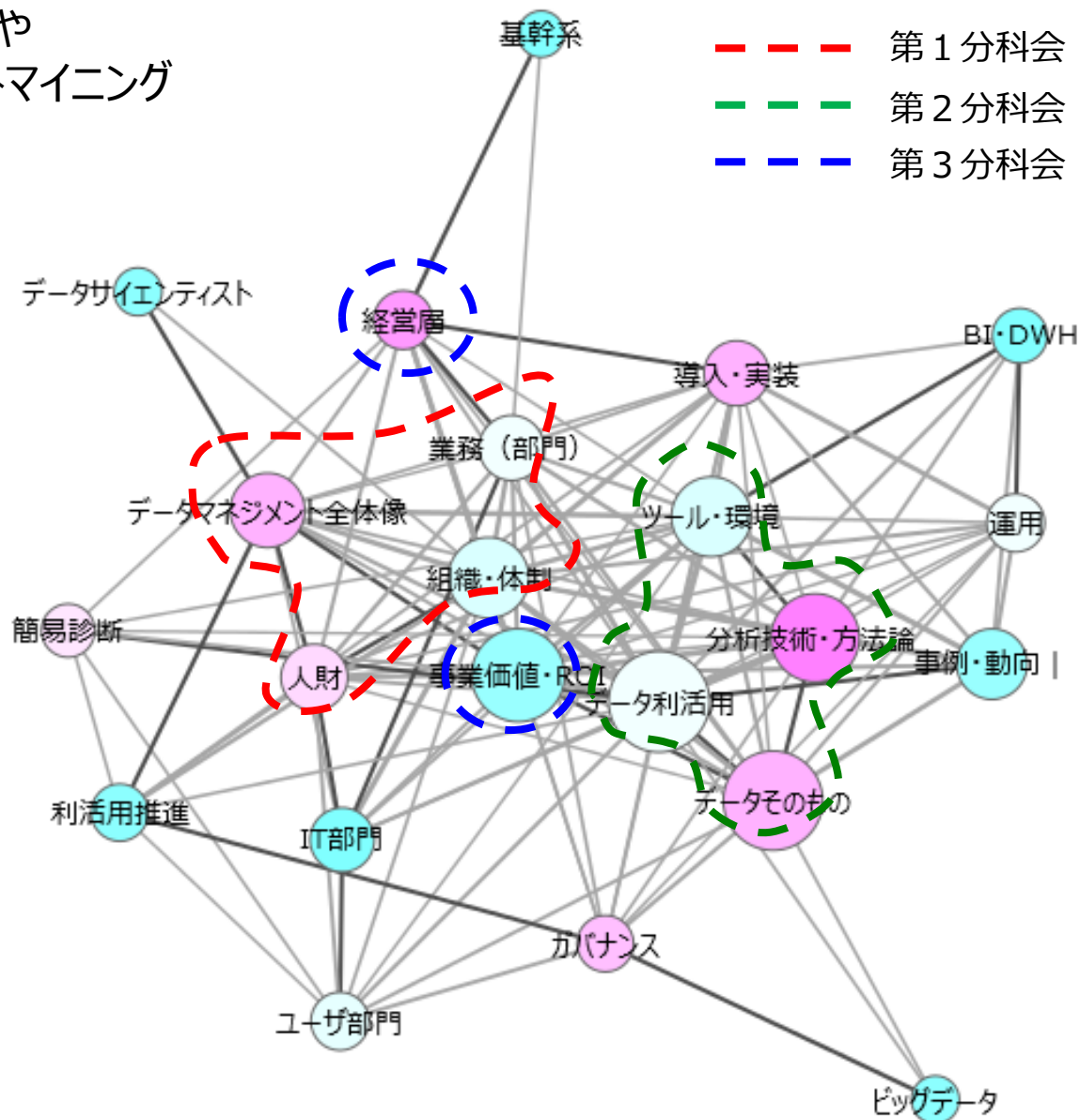
第2回定例会のブレスト



研究会参加申し込み時 アンケート

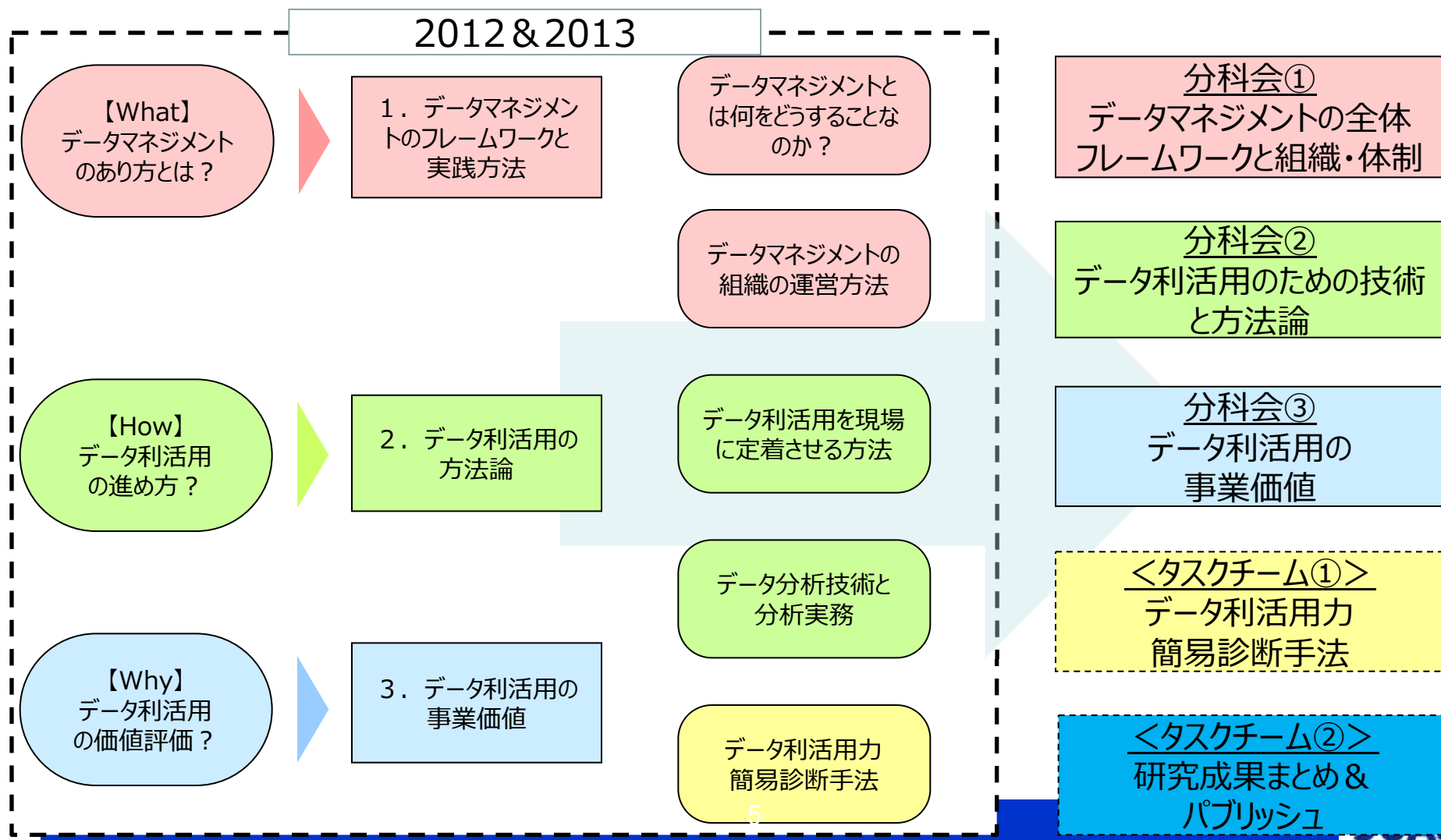


分科会申し込み時 アンケート



研究会 2012年度から2014年度の取組み

- ・2012年と2013年の研究テーマを継続し、3つの分科会に集約して研究活動を推進。
- ・2年間の成果を共有し、より深化あるいは不足点を補い、研究会としての完成形を目指す。



研究会 活動実績

・定例研究会 : 8回
・事例発表 : 4社

・合宿 : 2回

※ 分科会開催 多数

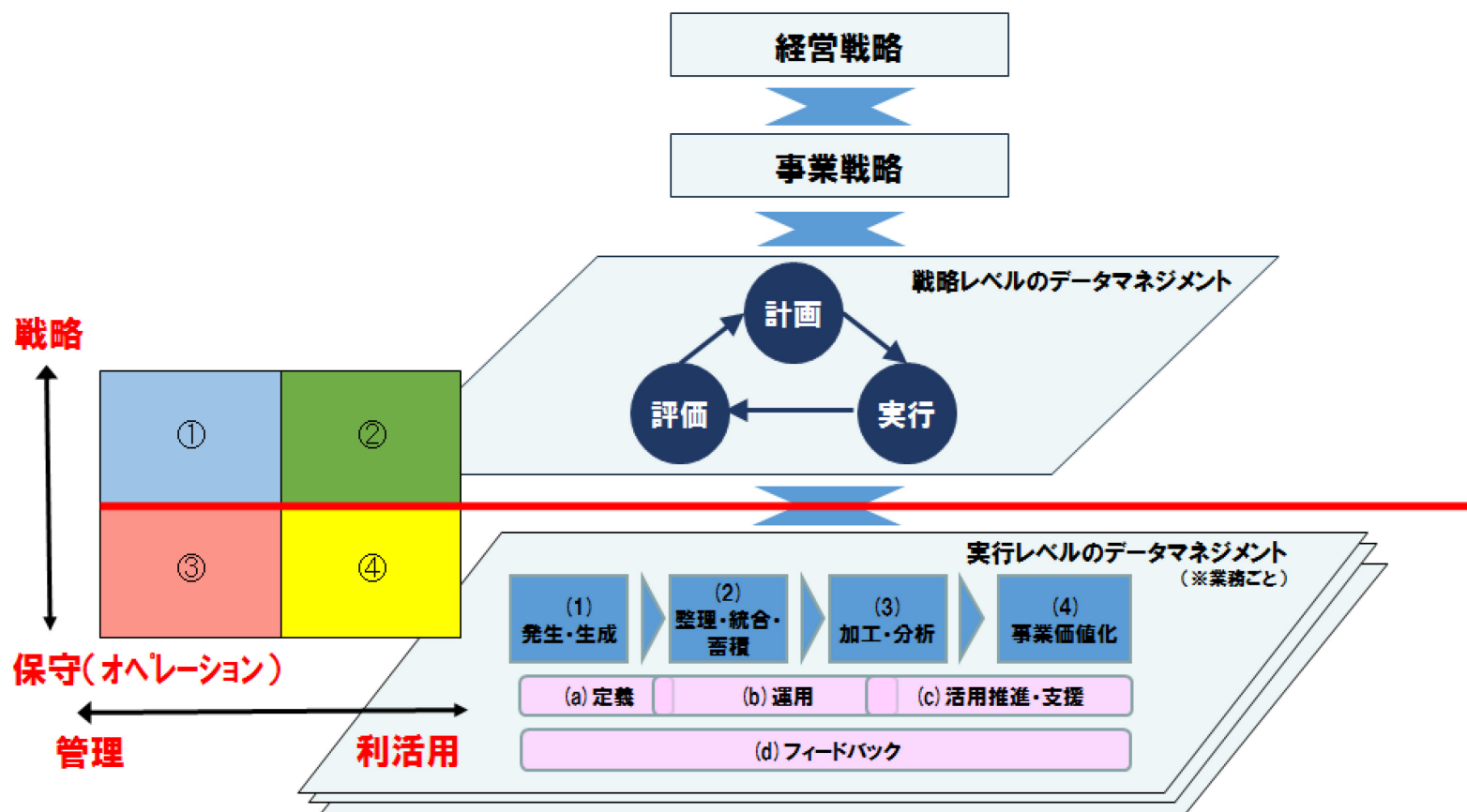
日程		研究会	メインテーマ	事例発表
5月22日	木	第1回定例研究会(JUAS)	・今年度研究会の方針発表 ・参加メンバー自己紹介	—
6月19日	木	第2回定例研究会(JUAS) ・自主開催	・2012年度、2013年度研究成果報告 ・グループディスカッション	—
7月17日	木	第3回定例研究会(JAL様) ・自主開催	・分科会キックオフ	—
8月1日	金	合宿(つくば国際会議場)	・分科会横断のワールドカフェ ・分科会研究内容の検討会	《特別ゲスト》 NTTドコモ 白川様
8月2日	土			
9月18日	木	第5回定例研究会(JUAS)	・事例発表 ・分科会活動	リクルートライフスタイル 春日様
11月19日	水	第6回定例研究会(JUAS)	・事例発表 ・分科会活動	協和発酵キリン 篠田様
1月28日	水	第7回定例研究会(JUAS)	・分科会活動 ・分科会中間報告	—
1月30日	金	JUASフューチャーアспект	・ディベートセッション 未来に向けたデータ利活用のあり方とは？	—
3月4日	水	第8回定例研究会(JUAS)	・分科会成果発表会	—
3月14日	土	第二合宿(JUAS) ・自主開催	・ワールドカフェ 未来に向けたデータマネジメントとは	大阪学院大 喜田先生

研究成果 ー第1分科会ー

ーデータマネジメントのフレームワークと組織ー

第1分科会 研究成果①

データマネジメントに関する分科会メンバーの課題認識を整理し、①「管理－利活用」②「戦略－保守」の四象限で整理した結果、これまでデータマネジメント研究会で策定した、データマネジメント全体像にマッピングできることが分かった。



第1分科会 研究成果② データマネジメント推進のための6か条

成功企業からの成功要因を分析した結果から、データマネジメント推進のための6か条を策定した。

其の一

概念データモデルを作るべし！

～ER図を書くことが目的ではない！全社員が見て納得する絵・共通の認識を持つ事が目的！
～ビジネスモデル単位に作成せよ！

其の二

データ維持管理の専門組織を作るべし！

～維持運用プロセスの継続も行うべし！

其の三

データ基盤環境を整備せよ！

～マスタデータの一元管理、各システムへの自動配信が理想！

其の四

同音異義語、異音同義語が整理されたデータ辞書を整備せよ！

～ユーザーが自由に閲覧できる項目説明されたWiki的なもの。

其の五

データ・システム・業務を理解した人が不可欠！

～データスチュワード。人に注目し、育てることが重要！

其の六

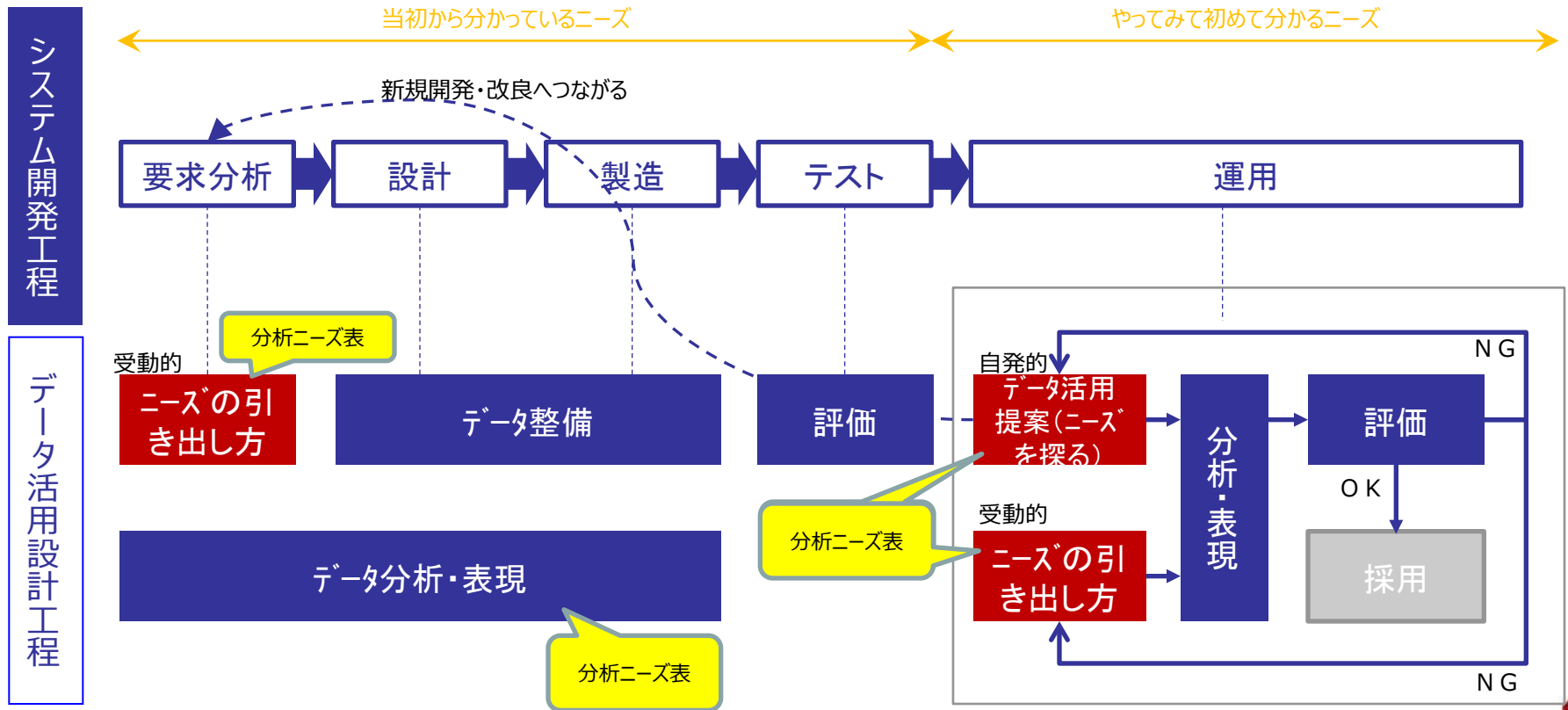
各部署の利害関係をブチ破れるような強いリーダーシップが必要と心得よ！！

研究成果 ー第2分科会ー

ーデータ利活用のための技術と方法論ー

第2分科会 研究成果① データ活用設計工程の定義(1/2)

- 分析ニーズは、従来の要求分析のアウトプットとは異なる観点が必要である。
⇒データ活用設計工程における「分析ニーズの引き出し方」や「活用提案」を **5W1Hの観点で整理**する『分析ニーズ表』を設ける。
- 分析ニーズは、ビジネス・与件の変化により変幻自在である。
⇒運用・維持管理でも『分析ニーズ表』を活用し続ける。



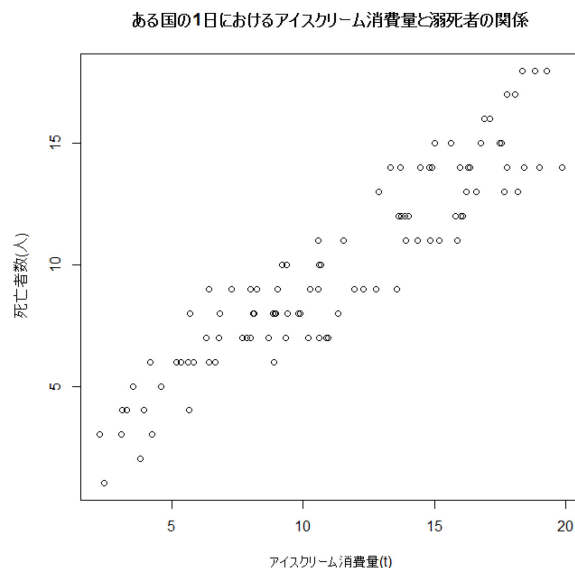
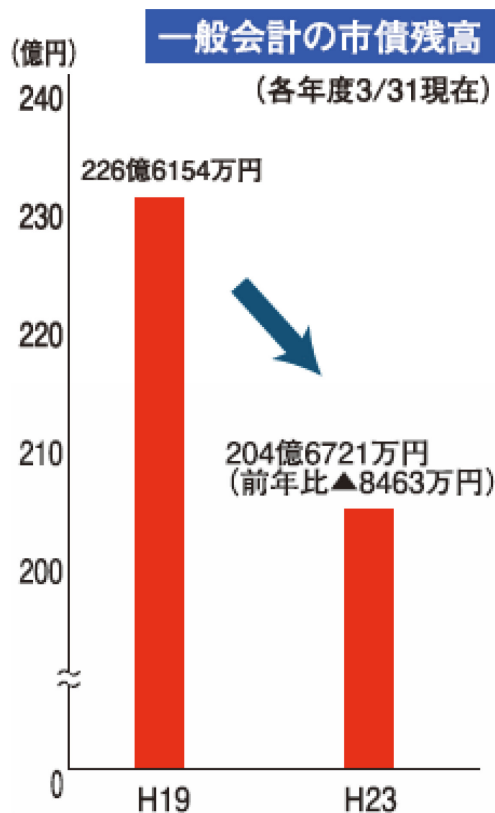
第2分科会 研究成果① データ活用設計工程の定義(2/2)

『分析ニーズ表』のイメージ

[illegible]

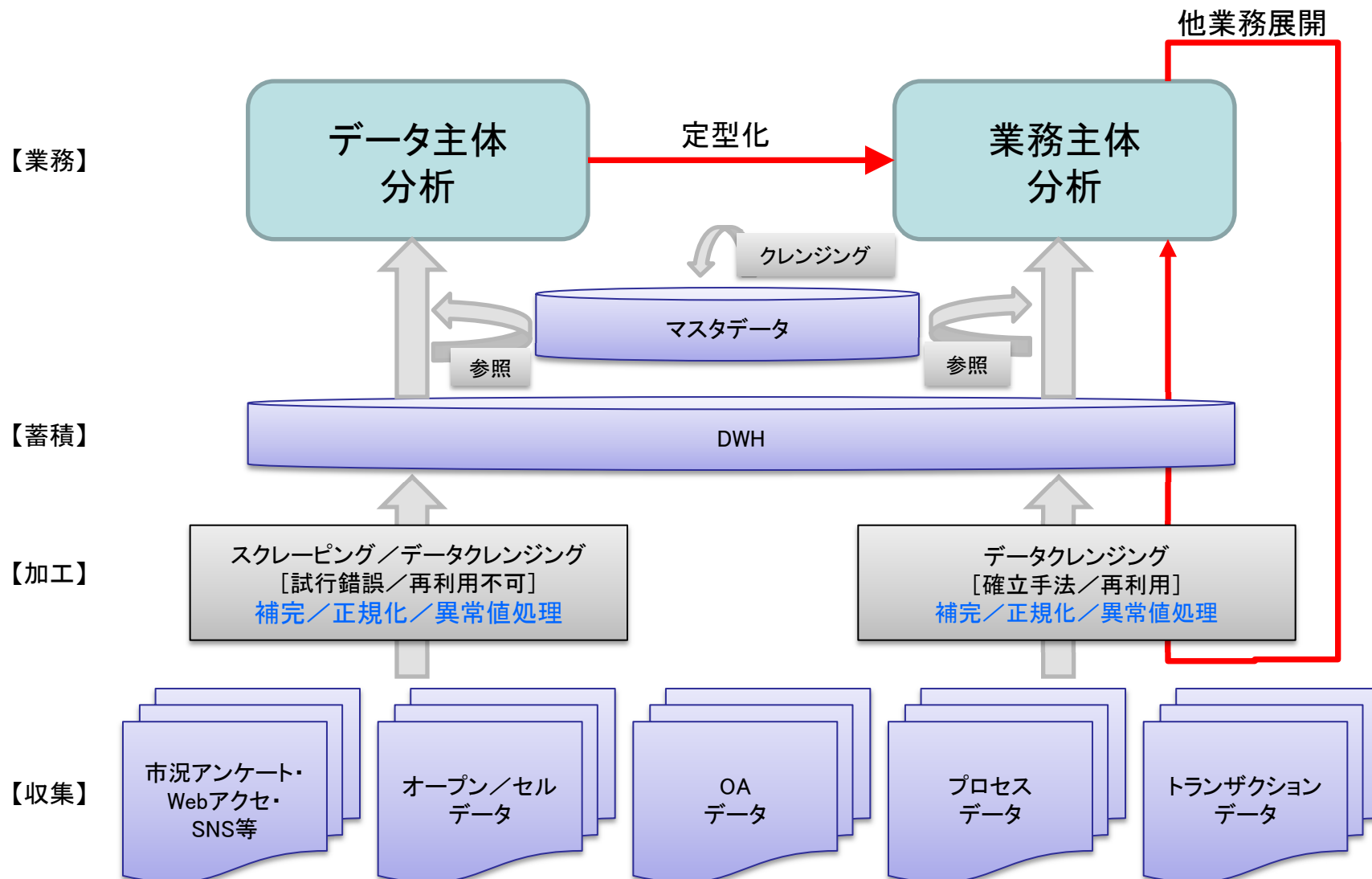
第2分科会 研究成果② データ分析表現のあり方

様々なデータ“分析表現”の事例を分析し、問題のある分析表現を分類し、チェックリストを作成。



N O	大分類	観 点	チェック項目	説明	例
1	分析の狙い・目的	Why	☐ アウトプットの背景や目的が明確になっていますか？	このアウトプットはどのような背景のなか、どのような目的を達成するために取り組んだ結果なのかを明記する。	西東京市の学習状況や教育に対する意識の変化を把握することを目的に・・・
2	分析の対象	What	☐ 分析の対象あるいは対象外が表現されていますか？	対象となる商品やサービスなどターゲットに関する条件（除外も含む）がある場合はそれを明記する。	二酸化炭素、ブラン、菓子パン、惣菜パン、都議選に関するツイート・・・
3	分析プロセス	How	☐ 調査方法や分析手法が表現されていますか？	調査や分析に用いられた手法を明記する。	紙の一斉配布・一斉回収、
4	分析条件	Where	☐ 地理的な要素が重要なファクターとなる場合に地理的条件が表現されていますか？	国・都道府県・管轄エリアなど地理的条件（除外も含む）がある場合はそれを明記する。	国内、海外、全国・・・
5		Who	☐ 人的な要素が重要なファクターとなる場合に対象となる個人・組織が表現されていますか？	対象となる個人・組織などヒトに関する条件（除外も含む）がある場合はそれを明記する。	会員、市内の小学4年生および6年生（無作為抽出）、男女20代～
6		When	☐ 時間的な要素が重要なファクターとなる場合に時間的条件が表現されていますか？	対象となる期間・曜日・時間帯・時点など、時間的条件（除外も含む）がある場合はそれを明記する。	YY年MM月DD日～YY年MM月DD日

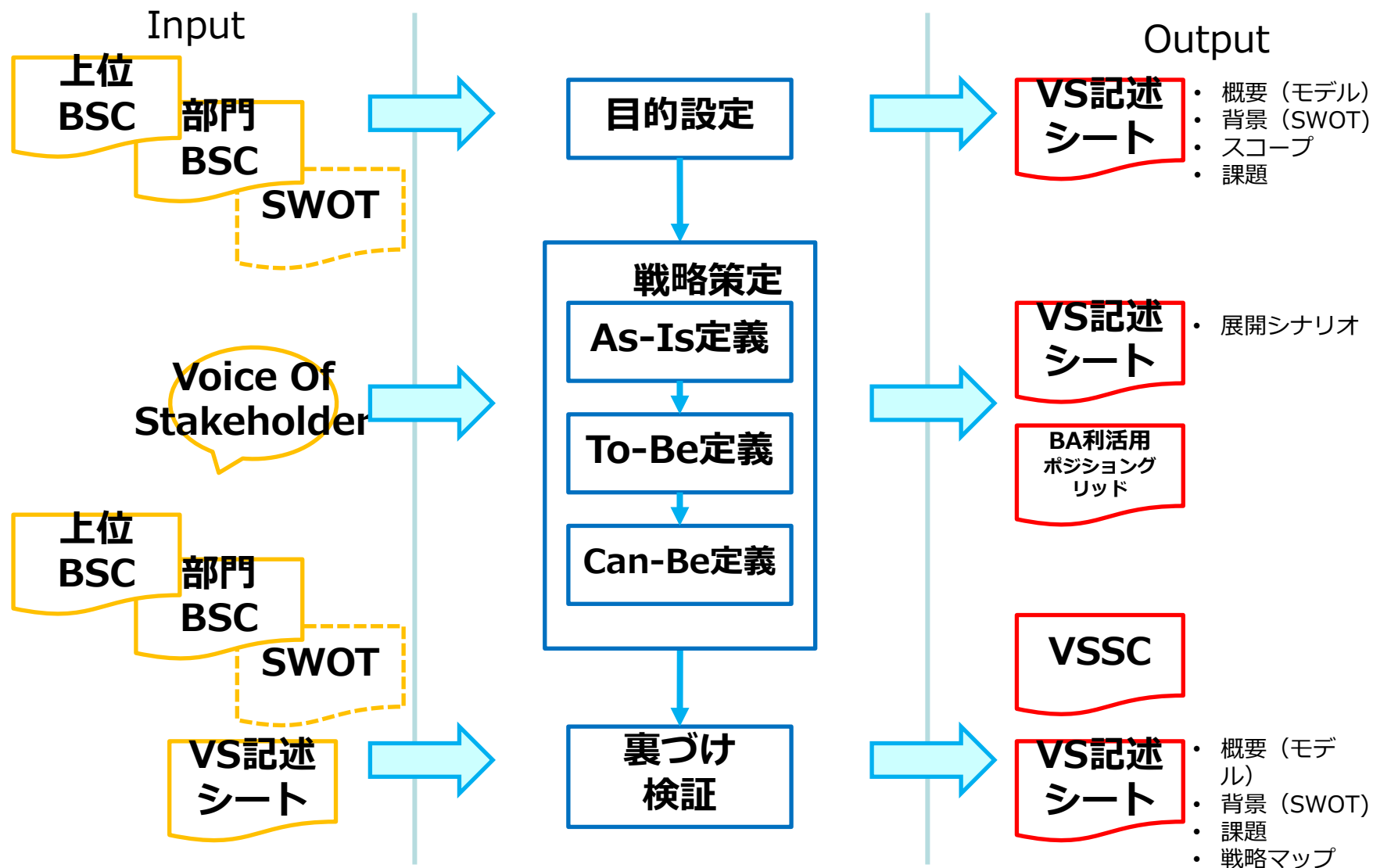
第2分科会 研究成果③ データ整備概念イメージ



研究成果 ー第3分科会ー

ーデータ利活用の事業価値ー

第3分科会 研究成果① DM投資上程資料作成手順

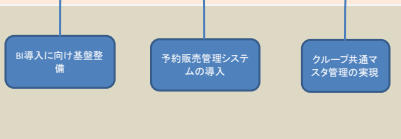


第3分科会 研究成果② Value Structure Score Card

・VSSC(Value Structure Score Card)

→ 中間成果物のひとつ。

「VS記述シート」の補足資料で、「VS記述シート」の裏づけとして、BSCとVSの紐付けを行い、事業計画における関係性を訴求する。

VS視点	戦略マップ	BSC KGI	CSF (重要成功要因)	BSC視点	KPIと判断基準情報 (重要業績評価指標)	Value	情報視点の 管理サイクル	目標達成のためのAction Plan	DM実行フェーズ	対象組織	情報把握のための 基礎データ	データ視点の 管理サイクル	IT部門	業務部門	経営層	
経営価値・効果		利益率10%以上	レベニューマネージメント積極応用	財務の視点	利益率	10%	月次、年次	経営資源(ヒト・モノ・カネ)の最適な配分を図る	活用・価値化						○	
			データマネージメントの積極利用	顧客の視点	予約率 (アンケート内容、業務日誌)	60%	月次	顧客ロイヤリティの向上(物語の創出) エリアマネージメント	活用・価値化						○	
				業務プロセスの視点	クレーム件数	0	随時	クレーム内容の仕分けと対策指導	活用・価値化						○	
				成長と教育の視点	同業会、外部研修への参加 人気旅館への宿泊	N会(年)	随時	業界トレンドの把握とプロトタイプへのフィードバック	活用・価値化						○	
業務価値・効果			データマネージメント運用の継続	財務の視点	サービスチケット発行数	N件(年)	年次	サービスチケットの内容見直し	活用・価値化	本部、フロント	販売実績記録		日次		○	
			顧客嗜好の情報共有	顧客の視点	アンケート回収率 (DM希望者の把握)	80%	日次	アンケート記載内容の見直し	活用・価値化	フロント	宿泊時アンケート		日次		○	
			顧客チャネルの開拓	業務プロセスの視点	イベント予約ヒット率	50%	四半期	ハイクラス向け予約サイト等、外部チャネル利用	活用・価値化	本部、フロント	予約管理データ		日次		○	
			スタッフ別BSCの運用	成長と教育の視点	接客サービス度数	1回以上	月次	予約状況の常時閲覧	活用・価値化	フロント	予約管理情報		日次		○	
IT化業務価値・効果			データマネージメント運用の継続	財務の視点	客室稼働率	60%	月次	顧客アクセス方法の見直し	加工・分析	本部、フロント	予約管理データ 顧客アクセス内容		月次		○	
			スタッフ別BSCの運用	顧客の視点	接客時間	2時間(一泊)	日次	顧客からのヒアリング情報のフィードバック	発生・生成	フロント	簡易日報		日次		○	
			フロントからの逐次指導	業務プロセスの視点	顧客データデュー入力率	100%	日次・月次	入力率アップ開示、インセンティブ付与	発生・生成	フロント	簡易日報		日次		○	
			企画会議の継続	成長と教育の視点	企画立案(提案)数	N件(年)	年次	イベント予約ヒット率の状況分析と考察	活用・価値化	本部、フロント	アイデア提案		月次		○	
ITシステム価値・効果			システム運用の課題検証	財務の視点	システム利用率	100%	年次	システム利用状況の分析と考察と業務部門へのフィードバック	活用・価値化	本部、フロント	予約販売管理システム		年次	○		
			データ入力方式の見直し	顧客の視点	データ入力率	100%	四半期	システム利用の課題等、定期的な情報交換	活用・価値化	本部、フロント	グループ共通管理マスク		日次	○		
			顧客セグメントの解析	業務プロセスの視点	データ精度		年次	データ項目の見直し	活用・価値化	本部	顧客入力データ、アンケート 現場ヒアリング情報		年次	○		
			(専任の設置?)	成長と教育の視点	旅館業務のスキル習得	1回	年次	現場業務研修	活用・価値化	本部	研修レポートの作成		都度	○		

第3分科会 研究成果③ データ利活用の評価と納得 ⇒ 事業価値化の全体像

対象テーマ



分析対象テーマと目的明確化！
分析結果評価基準と納期明確化！

データ分析担当者



IT担当者



相手の
理解と
相互
信頼！

- * 分析結果利活用部門ー利用者の明確化
- * 利用者VS分析担当者間の深いコミュニケーションと相互信頼
- * 利用者が知りたい事と利用者に理解して欲しい事柄の明確化
- * 利用者の正しい理解と共感⇒利用者の納得の実現へ
- * 利用者の分析活用の自己プロセス化へ

利活ユーザー



経営層



マネジメント層



現場業務層

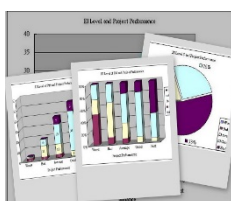
- * 分析テーマ・目的に合うデータ分析対象データ内容と蓄積状況の把握
- * 分析達成レベル明確化＝有効性判断基準の明確化
- * 分析結果データと対象テーマとの因果関係に関わる情報を明確化

- * 正しく適切な分析結果を出し。伝えるべき分析結果を選ぶ。
- * データ分析結果を業務視点から理解し、利用者から見て「生きた・有効な情報」として提示する。
- * 適切なデータ・情報粒度、データ・情報鮮度かを確認する。
- * 相手に応じたわかり易いプレゼンテーションの実施
 - － 相手を理解し相手毎に適切な表現で記述する。
 - － 適切なタイミングで提示する。
 - － 相手が自分事として感じる内容を提示ー相手の言葉を使う。

- * 利用者の正しい理解
- * 知りたい事が判りやすく表現されている事！
- * 利用者の立場からの納得
- * 課題解決と関連付けられた分析結果説明
- * 生きた、地に足が着いた分析結果内容
- * 利用者の分析活用の自己プロセス化

分析対象データ

データ分析結果



判り易い説明資料 対象相手が判るプレゼン



理解

納得

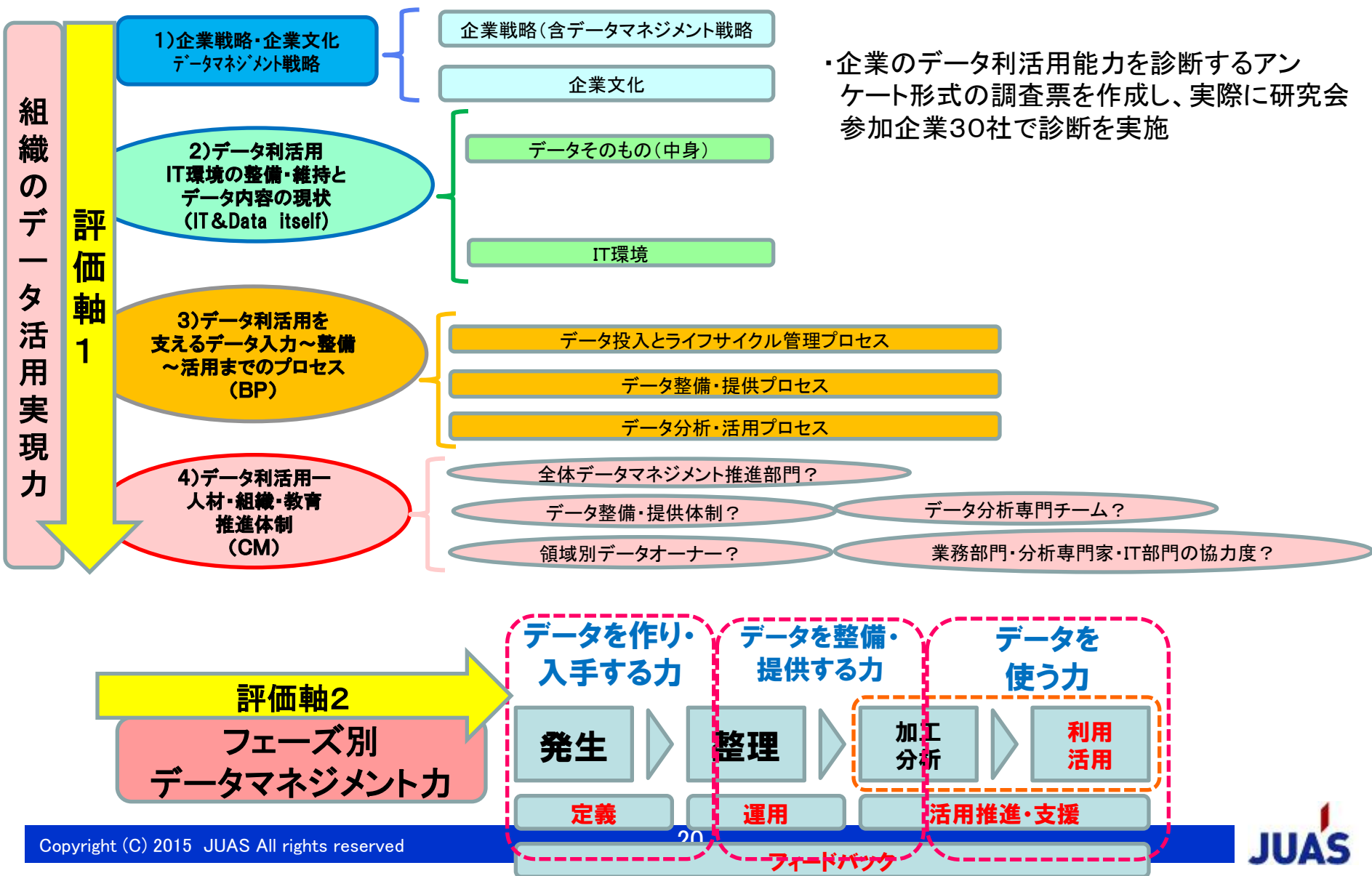
判断・行動化



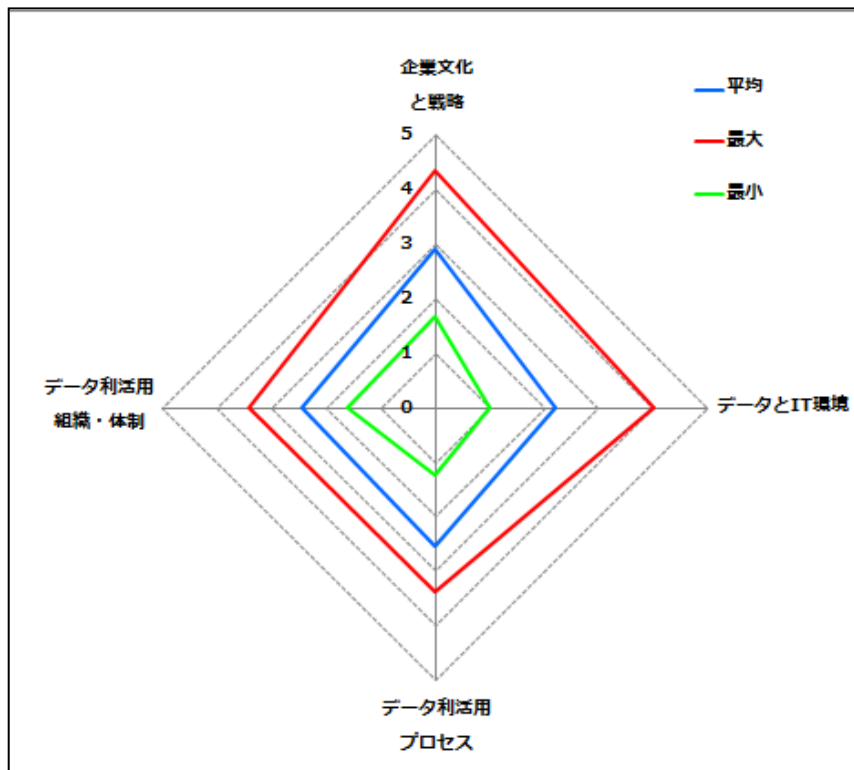
研究成果 ータスクチームー

ーデータ利活用力診断ー

タスクチーム研究成果① データ利活用力診断のフレームワーク

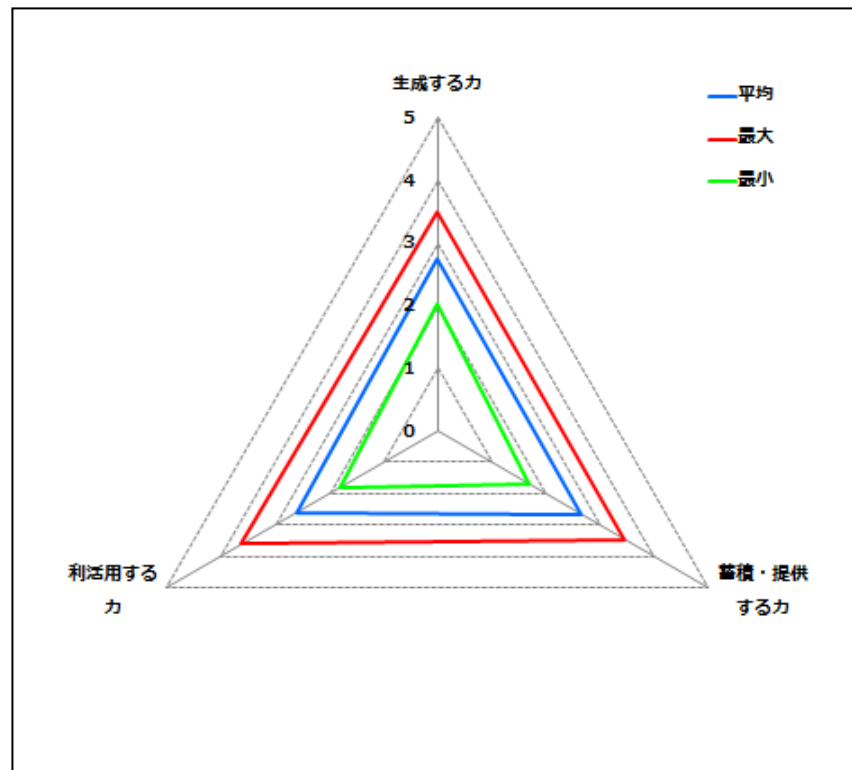


タスクチーム研究成果② 30社へのアンケートによる調査結果



評価軸 1

組織のデータ活用実現力



評価軸 2

フェーズ別データマネジメント力

データマネジメント研究会

2015年度

予告

2015年度 データマネジメント研究会テーマ案

2015年度 研究テーマ案

1. 2つの分科会を継承
2. 研究成果レポート作成
 - ①2012~2015年度成果物の作成&パブリッシュ
 - ②データ利活用力簡易診断の分析実施

2015年度 兄弟研究会

1. データサイエンス研究会